

ビグアナイド系経口血糖降下剤・SGLT-2 阻害薬併用患者の 乳酸アシドーシスへの理解度について

田村 真唯¹⁾、安藤 陽子²⁾、原井 厚子²⁾、佐藤 展宏³⁾、浅井 宏昭³⁾、
長屋 弥生³⁾、長尾 久義³⁾、前田 守⁴⁾、長谷川 佳孝⁴⁾、月岡 良太⁴⁾、
森澤 あずさ⁴⁾、大石 美也⁴⁾

- 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 上堀店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 富山大学病院前店
- 3) 株式会社アインファーマシーズ
- 4) 株式会社アインホールディングス

【目的】ビグアナイド系経口血糖降下剤(BG)は、電子伝達系を抑制してブドウ糖からエネルギーを生み出す好気性ルートを阻害するため、嫌気性ルートでの乳酸生成が促進される。そのため、乳酸で血液が酸性に傾く乳酸アシドーシス(LA)をおこす危険性がある。また脱水症状になると、血中薬物濃度が高くなるとともに血流悪化で嫌気性が強くなるため、LA の発生率は上昇する。LA は、消化器症状、倦怠感から脱水、低血圧、低体温、昏睡などに進行する致死率の高い疾患である。したがって、BG の服用時、特に利尿作用がある SGLT-2 阻害薬(SGLT2)などを併用する場合は、十分に水分を摂取する必要がある。そこで本研究では、LA に対する患者の認識を調査し、副作用防止に向けて薬剤師が取り組むべき課題の抽出を目的とした。

【方法】2018年2～4月に当社薬局11店舗に来局したBG・SGLT2併用患者39名(男性:23名、女性:16名)にアンケート調査した。内容は「以下3項目の認知度(BG副作用のLA、脱水によるLA発生率の上昇、SGLT2副作用の脱水症状)」、「薬剤師から脱水への注意喚起を受けた経験」「季節を意識した水分摂取量の調節有無」とした。

【結果】3項目の認知度は、BG副作用のLAが12.8%、脱水によるLA発生率の上昇が5.1%、SGLT2副作用の脱水症状が25.6%であった。薬剤師から脱水症状への注意喚起を受けた患者は47.6%であった。季節を意識した水分摂取量の調節有無は、「夏は冬より水分摂取する」が69.2%と最も多かった。

【考察】本結果から、服用薬にLAの危険性があり、併用薬がそのリスクを上昇させていることを認識していない患者が多いことがわかった。薬剤師から脱水症状への注意喚起を受けた患者は半数にも満たず、副作用回避には季節によらず水分摂取を意識することが重要であるが過半数が暑い季節のみ水分摂取を意識していることから、薬剤師は「副作用の予防」としての水分摂取であることをしっかりと伝える必要がある。

(第12回日本薬局学会学術総会(2018年11月, 名古屋)にて発表)